

令和5年12月28日発行
ISSN 0918-9173

福岡県保健環境研究所年報

第50号

令和4年度

福岡県保健環境研究所年報
第50号

令和4年度（2022）

*Annual Report of the Fukuoka Institute
of Health and Environmental Sciences
No.50 2022*



福岡県保健環境研究所

福岡県行政資料	
分類記号	所属コード
MA	4404504
登録年度	登録番号
05	0001

はじめに

当研究所は、昭和 49 年に福岡県衛生公害センター年報を発刊してから、本号で 50 年を迎えることができました。衛生公害センター発足当初は、公衆衛生、産業公害に対応するための試験研究を行ってきましたが、新たに保健衛生、環境保全等の社会要請が高まり、平成 4 年 4 月に名称を福岡県保健環境研究所に改め、機構改革が行われました。現在では、令和 9 年度に発足するワンヘルスセンターに向け、人獣共通感染症や生物多様性等、新たな課題解決に向けた試験研究に取り組み始めています。

当研究所における令和 4 年度の主な出来事や取り組みについて御紹介します。

保健分野では、前年に引き続き新型コロナウイルス感染症への対応として、ゲノム解析結果を用いた感染源・感染経路等の解析に積極的に取り組みました。また、県内老舗旅館で基準を大幅に超過したレジオネラ属菌が検出され、県は県内旅館など施設に対し調査を実施し、当研究所は検査等を担当しました。ワンヘルス薬剤耐性菌調査事業では、愛玩動物の薬剤耐性菌保有状況の把握に取り組むとともに、環境分野と連携して、水環境における抗生物質等の化学物質と薬剤耐性菌の汚染状況の把握にも取り組んでいます。医薬品関連では、令和 2 年度に後発医薬品メーカーで発生した品質問題によって医薬品の供給が不安定となり、深刻な社会影響が続いています。当研究所においても後発医薬品の品質試験に継続して取り組んでいます。

環境分野では、令和 4 年 12 月の硫黄臭の原因推定のため、大気シミュレーションモデルを活用して二酸化硫黄を指標とした発生源解析を行った結果、火山による影響が示唆されました。また、近年発展が著しい環境 DNA 技術を用い、魚類をはじめ、野生生物の調査に積極的に取り組んでいます。これらの結果は、気候変動や人獣共通感染症等諸問題に活用される予定です。さらに、河川水中のマイクロプラスチックの実態把握に関する研究、堆積物微生物燃料電池を利用して水質改善を行う研究等、多岐にわたる研究に積極的に取り組んでいるところです。

新型コロナウイルス感染症の流行や地球温暖化に伴う異常気象は世界各地で起こっており、このような問題の解決には、地方も可能かつ有効な取り組みを進め、世界に発信していくことが必要となってきます。そのため、人の健康、動物の健康、環境の保全を一体として考えるワンヘルスという考え方が重要であり、ワンヘルスセンターとして出発する私たちの役割に期待が高まっているところです。このように様々な問題に取り組んでいる当研究所ですが、今後とも私たちの研究に対する御理解と御支援をよろしくお願いいたします。

令和 5 年 12 月 福岡県保健環境研究所所長 香月 進